

履 修 の し お り

大学院教育学研究科
専門職学位課程
(高度教職実践専攻)
令和7年度(2025年度)



宮 城 教 育 大 学

目 次

基本理念・目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー	1
教育課程・指導体制等	5
1 教育課程	
2 学生の指導体制	
3 「実践研究論文」について	
「学校における実習」について	7
1 授業科目	
2 履修の免除	
3 実習の詳細について	
授業の方法等	9
1 学期と授業期間	
2 単位の計算方法	
3 修了するための要件	
4 現職教員学生の2年次の学修	
5 長期履修制度	
履修登録について	10
1 授業科目の履修登録について	
2 学部開講科目の履修・聴講について	
成績の評価と単位認定	11
1 成績の評価	
2 成績の確認	
3 単位の取り消し	
4 入学前に修得した単位の認定	
教員免許状について	12
1 本専攻で所要資格を取得できる専修免許状	
2 所要資格を取得するために必要な単位について	
休学・退学等について	13
教育課程及び履修方法	15
令和7年度授業計画	22
令和7年度授業時間割表	26
令和7年度講義要目	32
教員一覧	44

高度教職実践専攻（教職大学院）の基本理念

教職としての高度な専門性を全面に掲げながら、それが各分野の深い学問的知識・能力の育成によって支えられるという形で、両者を統一的に追求することを目指した教育を実施します。

高度教職実践専攻（教職大学院）の目的

専ら教員養成及び研修のための教育を行います。

- ・優れた専門的職業能力を備えた人材養成
- ・学術専門性と教育実践力を備えた、優れたミドルリーダーとなり得る人材育成
- ・広域で中核的・指導的役割を果たし得る力量あるスクールリーダーの養成

学位授与方針（ディプロマポリシー）

宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、学部段階や学校教育現場において培われた教員としての知識・技能と実践力を基盤に、さらに教職としての高度な専門性を身につけ、教育現場における今日的課題の解決に向けた、状況分析能力、分析結果を実践につなげる実行力を備えた教員、ひいては、学校や地域で中核的・指導的な役割を果たすスクールリーダーまたはその候補になり得る人材を養成します。

この方針のもとに、以下の3つのプログラムを編成します。「2年以上」在籍のうえ、所定の単位を修得し、総合的な教師力の高度化の達成に関する評価を受け、以下の資質能力を身につけたと判断された者に対して、教職修士（専門職）の学位を授与します。

○教科探究プログラム

各教科の背景となる学問知識を踏まえて「教科内容学」の研究方法を習得し、高度な教材研究力と教材開発力を身につけるとともに、子どもの認識や発達の実態に即して、授業を不断に改善していくことができる教科指導力を高めることにより、現職教員は、学習指導要領の目標等達成のため、学校と社会とのつながりを踏まえたカリキュラム・マネジメント、地域の物的・人的資源やICTを活用した授業展開・授業改善を高度に実践するとともに、校内における中核的な役割を果たす教員として若手教員への助言ができるスクールリーダーとなる。

また、学部卒業生等は、学部卒業の段階より更に学問の発展や社会状況の変化に応じてその水準を高め、高度な授業展開や授業改善を実践できる教員となる。

【現職教員】

- ・教科等に関する最新の高度な専門的知識・技能を有している
- ・学習指導要領の目標等を達成するための最新の高度な教育の方法・技術を身につけている
- ・社会に開かれた教育課程の視点を踏まえた教材研究・教材開発について助言ができる
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業展開・授業改善を実践し、教育課程の編成へ

の助言ができる

- ・授業づくり等に関して若手教員への助言ができる

【学部卒業生等】

- ・教科等に関する高度専門職としての知識・技能を有している
- ・学習指導要領の目標等を達成するための高度専門職としての教育の方法・技術を身につけている
- ・社会に開かれた教育課程の視点を踏まえた教材研究・教材開発ができる
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業展開・授業改善の実践ができる

○特別支援・子ども支援プログラム

変化が激しい社会で学習や発達に困難を抱える子どもに対応するために、特別な教育ニーズを抱えた子どものケーススタディによる発達・学習支援法を開発できる力や、ICTを駆使した教育を開発しながら子どもを支援できる力を身につけることにより、現職教員は、多面的・総合的に子どもたち一人一人の教育的ニーズを捉えて常に的確な支援が行えるとともに、校内における中核的な役割を果たす教員として若手教員への助言ができるスクールリーダーとなる。また、学部卒業生等は、多面的・総合的に理解する視点を有し、子どもたち一人一人の教育的ニーズを理解して的確に支援が行える教員となる。

【現職教員】

- ・教育法規の知識・ICT活用等の技術を有し、特別な支援を必要とする子どもへの個別的教育支援計画・個別の指導計画を関係機関と連携して作成する際に助言ができる
- ・教育相談やカウンセリングの最新の知識・技法を身につけているとともに、若手教員への助言ができる
- ・子どもの成長の段階等に応じた心理に関する最新の高度な専門的知識を有している
- ・子どもを多面的・総合的に理解する視点をもち、若手教員への助言ができる

【学部卒業生等】

- ・教育法規の知識・ICT活用等の技術を有し、特別な支援を必要とする子どもへの個別的教育支援計画・個別の指導計画を関係機関と連携して作成し、実践できる
- ・教育相談やカウンセリングの高度専門職としての知識・技法を身につけている
- ・子どもの成長の段階等に応じた心理に関する高度専門職としての知識を有している
- ・子どもを多面的・総合的に理解する高度専門職としての視点を有している

○学校課題解決マネジメントプログラム【現職教員】

学校という組織をマネジメントしていく「学校を支える力」として、地域の教育ニーズを踏まえつつ学校が直面している課題を発見し、教職員間で共有し、協働して解決できるマネジメント力を身につけることにより、学校運営及び教育活動の中核的な役割を果たすとともに、管理職・リーダーとし

での資質能力を有する教員となる。

- ・学校運営上自らが担うべき役割を全校的な視点から適切かつ効率的に果たすことができる
- ・他の教職員とのコミュニケーションを保ち、協働に向けた協調性を持つとともに、若手教員の意見等の把握・調整ができる
- ・いじめや不登校の問題を理解する姿勢を学校全体で常に共有し、組織的対応と体制整備を支援できる
- ・地域及び保護者や学校外の専門家及び関係機関との良好なコミュニケーションを保ち、信頼関係の下、連携・協働した教育活動を主導し、若手教員への助言ができる
- ・教職員間の協働、保護者や地域社会・関係機関との信頼関係の下での連携により、子どもの成長を支援することができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、多様化・複雑化する子どもの学習・発達のニーズに応えるとともに様々な教育課題の解決を目指し、教科専門（特別支援領域を含む）、教科教育専門、教職専門の密接な連携を通して、スクールリーダー及びその候補者としてふさわしい総合的な教師力を養成するためのカリキュラムを編成しています。

カリキュラムは、「専門高度化基盤科目」、「専門高度化探究科目」、「専門高度化深化科目」の3つの科目群から構成されており、共通専門科目としての「専門高度化基盤科目」での学修を基盤としながら、その上に「専門高度化探究科目」においてそれぞれのプログラムに対応した特色ある授業科目を履修します。また、その学修の過程においては、常に「理論と実践との往還」を基本とする「把握」、「適応」、「分析」、「開発」の段階的学修を進め、それらの学修と併行しながら「専門高度化深化科目」を履修します。

「専門高度化基盤科目」(24単位)

「教職共通5領域（①教育課程（教育課程の編成・実施に関する領域）、②教科指導（教科の実践的指導に関する領域）、③生徒指導・教育相談（生徒指導・教育相談に関する領域）、④学級・学校経営（学級経営・学校経営に関する領域）、⑤学校教育・教職（学校教育と教員のあり方に関する領域）」(20単位)と「学校における実習（基礎実践）」(4単位)で構成されます。

本教職大学院で体系的に育成すべき資質としての知識・技能を修得するとともに、学校現場の中核的・指導的な教員として、所属する学校のみならず広く地域全体の教育力の組織的な改善・充実に活用できる資質の育成を目指します。

「専門高度化探究科目」(8単位以上)

選択したプログラムの趣旨・目的等に対応する講義・演習・実習で科目群を構成しています。入学時に設定する「実践研究テーマ（達成目標）」に関連する科目を履修することにより、知識・技能と実践力の質的向上を目指します。

「専門高度化深化科目」(14単位)

教職専門と教科専門・教科教育専門、理論と実践の「架橋」となる、演習を中心とした「実践的指導力融合科目」(8単位)と「学校における実習（臨床実践）」(6単位)で構成しています。

全プログラム共通の専門科目である「専門高度化基盤科目」を履修したうえで、各プログラムに対応した特色を持つ「専門高度化探究科目」と「専門高度化深化科目」を組み合わせることで履修することにより「理論と実践の往還」を積み重ねて、教職としての総合的な力量形成を目指します。

教育課程・指導体制等

1 教育課程

(1) 理論と実践の往還

本教職大学院のカリキュラムは、大学での理論の学修と、現場での実践の学修とを往還すること（理論と実践の往還）を通じて、高度専門職業人としての教師の専門性の深化を実現します。

理論の学修の中軸をなすものは、「教育課程」、「教科指導」、「教育相談」、「学級・学校経営」、「学校教育・教職研究」からなる「専門高度化基盤科目（共通5領域）」のほか、学生それぞれの研究テーマの理論を深める「専門高度化探究科目」です。専門高度化探究科目は、教科探究科目、特別支援・子ども支援科目、学校課題解決マネジメント科目の3つの科目群から構成されています。これにより専門的な知識に裏付けられた確かな理論を確立することが可能です。

実践の学修については、「学校における実習」を設置しています。学校における実習は、「基礎実践（専門高度化基盤科目）」と「臨床実践（専門高度化深化科目）」に分かれています。基礎実践は、1年次の「学校課題探究実習Ⅰ」「学校課題探究実習Ⅱ」です。臨床実践は、1年次の「学校課題解決実習」と2年次の「臨床教育開発実習」があります。理論系の諸授業科目との連動を常に意識しながら、「把握」→「適応」→「分析」→「開発」の一貫した学習過程により、理論の深化と実践の高度化を図ります。

理論と実践を架橋するのが、「実践的指導力融合科目（専門高度化深化科目）」です。

学校での教育課題の実態把握から始まり、分析し、それを踏まえて指導方法や支援法等を開発し、実践を通じて検証するプロセスを繰り返しながら、最終的に教育現場や地域に提案できる成果を生み出します。そのプロセスを「実践研究論文」にまとめ、学修成果を公開することを目指します。

(2) プログラム制

本教職大学院では、それぞれの学生が入学時に設定する「実践研究テーマ」に即して、3つの履修プログラム（教科探究プログラム、特別支援・子ども支援プログラム、学校課題解決マネジメントプログラム）を準備しています。

専門高度化探究科目の選択必修8単位として、3つの科目群（教科探究科目、特別支援・子ども支援科目、学校課題解決マネジメント科目）のどれを履修するかによって、どのプログラムを履修するかが決まります。なお、学校課題解決マネジメントプログラムを履修できるのは、現職教員学生のみです。

2 学生の指導体制

学生の研究テーマに沿って、「教員ユニット」という指導組織を編成し、複数の教員により学生の指導を行います。ユニット長の指導教員を中心に、それぞれの学生の研究指導と学校における実習の指導は教員ユニットが担います。なお、教員ユニットには、専任教員だけでなく、授業担当兼担任教員も、ユニット長、副ユニット長、ユニット構成員として加わることができます。

教職領域、教科教育領域、及び教科専門領域の研究者教員と実務家教員との連携による指導を通して、高度な教科指導力、学級・学校経営力、児童・生徒に対する理解力・支援力を身につけることができます。

3 「実践研究論文」について

学生それぞれが一貫した研究テーマを設定し、「理論と実践の往還」プロセスを通じて、教育課題の「把握」、「適応」、「分析」、「開発」の段階的学修に取り組みます。

高度教職実践専攻における2年間の学修プロセスは、実践的指導力融合科目（専門高度化深化科目）「臨床教育総合演習B」（2単位）の成果物である実践研究論文に収斂します。

実践研究論文の完成までの、1年次中間・最終、及び2年次中間という節目で行われる研究成果発表会に向けた実践と研究の成果の蓄積・整理と発表及び討論、明らかになった課題の再検討という日常的な過程の積み重ねをもとに、実践研究論文を作成していくことになります。

実践的指導力融合科目については、実践研究論文の作成及び発表をもとにユニット長を中心に評価案を作成し、高度教職実践専攻運営委員会会議での審査を経て各学生の評価を確定しています。

実践研究論文作成要領、執筆の手引きについては、後日お知らせします。

「学校における実習」について

1 授業科目

学部卒業生等（ストレートマスター）については、大学と学校教育創造・研修校を往還する実習に拠り、教育実践と子ども理解を深化させつつ、「学び続ける教師」の基盤を確立するための実習を行います。

現職教員学生については、授業実践や学校運営等を自ら立案・実施し、実践での成果と課題を検証・開発する力を高めることを目標に、学校経営を視野に入れて、高度な専門的知識・技能をふまえ、教育課程編成と授業実践への助言、さらに、校内研修体制の組織化・運用の支援ができるミドルスクールリーダーとしての資質・能力を備えた教員を育成するための実習を行います。

授業科目名	実習期間	配当年次	実習の目的	
学校課題探究 実習Ⅰ (基礎実践)	5月～7月 (10日間)	1年次	各自が探究するテーマに即して、学習指導及び生活指導をめぐる課題や子どもの実態等を把握する。	実態把握
学校課題探究 実習Ⅱ (基礎実践)	8月～10月 (10日間)	1年次	実習校での授業実践等を通して、理論系の授業科目で修得した内容等と関連付けながら省察し、自らの実践研究テーマに関わる、授業、学級経営、児童・生徒支援をどのように立案・実施すべきか、自己の教育課題を見出す。	適応
学校課題解決 実習 (臨床実践)	11月～1月 (10日間)	1年次	自ら立案・実施した学習指導等の成果を分析し、各自の取り組む課題を明確にするとともに、教育的な意義や可能性について、他者との協働活動を通して考察する。 さらに、現職教員学生は、ミドルリーダー教員として、当該実習を通して、他の教員に対して助言できる資質・能力を身につける。	分析
臨床教育開発 実習 (臨床実践)	4月～1月 (20日間)	2年次	これまでの学校における実習及び理論系・融合系科目で修得した内容等と関連づけながら、自ら立案・実施した教育実践の分析を通して得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導力を深化させる。 さらに、現職教員学生は、ミドルリーダー教員として、他の教員との協働による学校・地域の臨床実践と研究を進める資質・能力を身につける。	開発

各授業科目について、事前指導として、大学でのオリエンテーション、実習校との打合せを実施します。実習に際して、学生は教員ユニットの指導のもと、事前に「実習計画」を作成し、実習中には「実習記録」を作成し、実習の省察を行います。事後には、「実習報告書（報告レポート）」を作成して提出します。

2 履修の免除

教員としての実務経験を有する者（現職教員学生等）について、教育上有益と認めるときは、「学校課題探究実習Ⅰ」及び「学校課題探究実習Ⅱ」の履修を免除することがあります。

該当者には、申請時期や申請に必要な書類等を別途お知らせします。

なお、当該免除の可否は、当該実習科目の到達目標に達しているかを確認する審査を行い、その審査の結果に基づいて判断します。

3 実習の詳細について

各実習科目の詳細は『実習のしおり』で確認してください。

授業の方法等

1 学期と授業期間

1 年を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2学期に分けて授業期間を設定しています。

授業科目には、前期だけ、または後期だけに開講される科目と、1年を通して開講される科目（通年科目）があります。前期または後期だけに開講される科目は15週、通年科目は30週にわたって行われますが、一定期間に集中して行われる授業科目もあります。

2 単位の計算方法

1単位の授業科目は、45時間（授業時間と授業外の学習時間の合計）の学修を必要とする内容で構成することを標準としており、授業時間は授業の形態に応じて次の基準により計算します。

（1）講義、演習については、15時間から30時間をもって1単位とします。

（2）実験、実習、実技については、30時間から45時間をもって1単位とします。

3 修了するための要件

本学教職大学院を修了するためには、2年（標準修業年限）以上在学し、定められた履修方法に従い、定められた単位数を修得する必要があります。

修了に必要な単位数については、『教育課程及び履修方法（P.15～）』を確認してください。

4 現職教員学生の2年次の学修

派遣教員である現職教員学生については、2年次においては、大学院設置基準第14条特例を活用し、勤務校において、研究・研修を継続できる措置をとります。なお、1年次からの学修との連続性を考慮し、勤務校との協議の上、学校現場での実践研究の継続を可能にするように配慮します。

5 長期履修制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限（2年）では教育課程の履修が困難な学生を対象として、2年間の授業料で3年または4年間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することができる長期履修制度を設けています。

この制度の適用を受けようとする場合、または適用を受けている学生が履修期間の変更を希望する場合などの詳細については、教務課に問い合わせてください。

履修登録について

1 授業科目の履修登録について

授業科目を履修するためには、年度ごとに履修登録をする必要があります。ユニット長の履修指導を受け、履修しようとする授業科目を決定し、次により手続きを行ってください。

なお、授業の内容等については、『教育課程及び履修方法（P.15～）』、『講義要目（P.32～）』及び『シラバス（本学 HP に掲載）』等を参照してください。

（1）ポータルサイトによる履修登録

当該年度に履修する全ての授業科目について、年度はじめ（4月）の所定の期間に、本学ホームページからアクセスできるポータルサイトを用いて履修登録を行ってください。

（2）履修登録の上限（CAP 制）

各授業科目の教育効果を勘案して、履修科目として登録できる単位数には、上限が定められています。1年間に登録できる単位数は38単位です。4月当初に十分検討の上、履修計画を立ててください。

履修登録をしなかった授業科目については、単位の認定を受けることができません。

また、既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

2 学部開講科目の履修・聴講について

（1）学修を進める上で、特に教育研究上必要と認められる場合には、所定の手続きを経た上で、学部開講科目の履修を許可することがあります（通常の授業料とは別に科目等履修生に準じた授業料がかかります。また、学部開講科目の履修単位は、履修登録の上限（38単位）に含まれません）。なお、教員免許状既取得者で上級免許状、他校種免許状取得のために学部開講科目の履修を希望することについては、慎重に検討した上で認められる場合もあります。

（2）学修をすすめる上で、特に教育研究上必要と認める場合には、所定の手続きを経た上で、学部開講科目の聴講を許可することがあります（聴講する場合は、当該授業科目の単位は認定されません）。

学部開講科目の履修・聴講の手続きについては、別途指示します。

成績の評価と単位認定

1 成績の評価

成績評価は、原則として、試験の成績及び平常の学修成績に基づいて、授業の終了した学期末または学年末に行います。

試験は、筆答、レポート、実技、口述等のいずれかまたは併用により実施します。

各授業科目の「評価の観点」及び「成績評価基準」を基に評価を行い、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とします。

「評価の観点」及び「成績評価基準」は、シラバスで確認してください。なお、各評価段階における標語及びめやすは、以下のとおりです。

評価段階	評 語	100点満点でのめやす
S	きわめて優秀な水準に達している	90～100点
A	優れた水準に達している	80～89点
B	ねらい通りの水準に達している	70～79点
C	合格に足る水準に達している	60～69点
D	合格に足る水準に達していない	59点以下

2 成績の確認

成績は、本学ホームページからアクセスできるポータルサイトを用いて、確認することができます。確認可能な期間及び確認方法は、掲示等によりお知らせします。

3 単位の取り消し

既に修得した授業科目の単位は、取り消すことができません。

4 入学前に修得した単位の認定

本研究科に入学する前に、本研究科、他の大学院等において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は、本研究科に該当する授業科目がある場合、所定の基準により本研究科で修得した単位として認定されることがあります。

詳細については、教務課に問い合わせてください。

教員免許状について

入学時に所有していた幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教育職員一種免許状に対応した、下記の専修免許状の所要資格を得ることができます。

1 本専攻で所要資格を取得できる専修免許状

- ・ 幼稚園教諭専修免許状
- ・ 小学校教諭専修免許状
- ・ 中学校教諭専修免許状
(国語) (社会) (数学) (理科) (音楽) (美術) (保健体育) (保健) (技術) (家庭) (職業)
(職業指導) (英語) (宗教)
- ・ 高等学校教諭専修免許状
(国語) (地理歴史) (公民) (数学) (理科) (音楽) (美術) (工芸) (書道) (保健体育)
(保健) (看護) (家庭) (情報) (農業) (工業) (商業) (水産) (福祉) (商船) (職業指導)
(英語) (宗教)
- ・ 特別支援学校教諭専修免許
(視覚障害者) (聴覚障害者) (知的障害者) (肢体不自由者) (病弱者)

2 所要資格を取得するために必要な単位について

専修免許状を取得するためには、基礎となる教育職員一種免許状を所有したうえで、免許状の種類に応じて必要な単位を24単位修得し、本専攻を修了することが必要です（複数の専修免許状を取得するためには、それぞれの免許状の種類ごとに24単位を修得することが必要）。

各授業科目の専修免許状の対応については、『教育課程及び履修方法（P.15～）』の科目一覧で確認してください。

休学・退学等について

1 休学

(1)「休学願」

病気等のやむをえない理由により、引き続き3ヶ月以上修学できない場合は、休学を願い出ることができます。休学を希望する者は、「休学願」に理由と休学期間を書き、ユニット長の承諾を得て、ポータルサイトから別途お知らせする期日までに教務課を通じて学長に許可を願い出てください。休学の理由が病気である場合は、医師の診断書も添付してください。

なお、授業料が納付されていないと、「休学願」は受理されません。休学を願い出の際は、授業料の納付状況を確認してください。

(2) 休学の期間

休学の期間は、1年以内と定められています。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て、引き続き休学することができます。休学の延長を希望するときは、「休学願」を改めて教務課に提出してください。休学の理由が病気である場合は、医師の診断書も添付してください。

休学の期間は、通算して2年を超えることはできません。

休学の期間は、在学期間には含まれません。

2 復学

休学期間内に、休学の理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができます。復学を希望するときは、「復学願」に理由と復学予定日を書き、ユニット長の許可を得て、ポータルサイトから別途お知らせする期日までに教務課を通じて学長に許可を願い出てください。

なお、休学期間の終了に伴う復学については、自動的に復学扱いとなりますので手続きは必要ありません。

3 退学

やむをえない理由で退学を希望する場合は、退学を願い出ることができます。退学を希望する者は、「退学願」に理由と退学予定日を書き、ユニット長の承諾を得て、ポータルサイトから別途お知らせする期日までに教務課を通じて学長に許可を願い出てください。退学の理由が病気である場合は、医師の診断書も添付してください。

なお、授業料が納付されていないと、「退学願」は受理されません。退学を願い出の際は、授業料の納付状況を確認してください。

4 再入学

本学を退学した者、または授業料未納により除籍となった者が再入学を志願する場合、選考のうえ、許可することがあります。

5 除籍

除籍とは、大学の命によって学籍から名を除く措置のことで、次のいずれかに該当する者は、教授会で審議のうえ、学長が除籍します。

- ① 入学料の免除もしくは徴収猶予を願い出て、免除もしくは徴収猶予が許可されなかった者で、所定の日までに入学料を納付しない者。
- ② 入学料の免除もしくは徴収猶予が許可された者で、所定の日までに入学料を納付しない者。
- ③ 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者。授業料が未納の場合は、当該学期末で除籍となる。
- ④ 学則に定める在学期間を超えた者。
- ⑤ 休学期間が通算して2年を超えて、なお復学できない者。
- ⑥ 死亡または長期にわたって行方不明の者。

6 学修や生活上の相談窓口

学修や学生生活についてはユニット長やユニット教員のほか、本専攻内に設けられている学生生活部会でも対応する体制を整えています。また、10号館1階の学生相談室も利用できます。

教育課程及び履修方法

修了要件：

本研究科に2年以上在学し、表1のとおり、修了単位（46単位以上）を修得すること。

ただし、学校における実習（基礎実践）の単位の一部又は全部を免除された場合は、所要単位数から免除された単位数を減じた単位数以上を修得すること。

（表1） 所要単位数

区 分		必要単位数	
専門高度化基盤 科目	教育課程の編成・実施に関する領域	2 単位以上選択必修	24単位
	教科の実践的指導に関する領域	2 単位以上選択必修	
	生徒指導・教育相談に関する領域	2 単位以上選択必修	
	学級経営・学校経営に関する領域	2 単位以上選択必修	
	学校教育と教員のあり方に関する領域	2 単位以上選択必修	
	学校における実習（基礎実践）	4 単位必修	
専門高度化探究 科目	教科探究科目	8 単位以上選択必修	8 単位
	特別支援・子ども支援科目	(同一の科目群に属する科目を 8 単位以上修得すること)	
	学校課題解決マネジメント科目		
専門高度化深化 科目	学校における実習（臨床実践）	6 単位必修	14単位
	実践的指導力融合科目	8 単位必修	
合 計			46単位

※各区分で開講する授業科目については、（表2）教育課程を参照すること。

(表2) 教育課程

1. 専門高度化基盤科目 (1) (共通5領域科目)

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
教育課程の 編成・実施 に関する領 域	学びの地図と資質・能力	2	1	幼・小・中・高	
	カリキュラムマネジメントと教師の役割	2	1	幼・小・中・高	
	社会に開かれた教育課程と授業開発	2	1	幼・小・中・高	
教科の実践 的指導に関 する領域	授業設計・教科内容構成論 (基礎)	2	1	小・中・高	
	授業設計・教科内容構成論 (応用)	2	1	小・中・高	
	教育における臨床の学の創造	2	1	幼・小・中・高	
生徒指導・ 教育相談に 関する領域	子どもの生活と行動・実態把握論	2	1	幼・小・中・高	希望免許 種により どちらか を選択
	子どもの生活と行動・実態把握論 (特別支援)	2	1	特支 (5 領域)	
	子どもの生活と行動・実態分析論	2	1	幼・小・中・高	希望免許 種により どちらか を選択
	子どもの生活と行動・実態分析論 (特別支援)	2	1	特支 (5 領域)	
	特別支援教育と学校・学級経営	2	1	幼・小・中・高	希望免許 種により どちらか を選択
	特別支援教育と学校・学級経営 (特別支援)	2	1	特支 (5 領域)	
学級経営・ 学校経営に 関する領域	安心・安全な学級・学校づくり (基礎)	2	1	幼・小・中・高	
	安心・安全な学級・学校づくり (応用)	2	1	幼・小・中・高	
学校教育と 教員のあり 方に関する 領域	地域協働と学校づくり	2	1	幼・小・中・高	
	教師の成長と子どもの発達	2	1	幼・小・中・高	

備考：領域ごとに2単位以上修得すること。

全ての領域で合計20単位以上修得すること。

2. 専門高度化基盤科目 (2) (学校における実習 (基礎実践))

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
学校における実習 (基礎実践)	学校課題探究実習Ⅰ	2	1	幼・小・中・高	
	学校課題探究実習Ⅱ	2	1	幼・小・中・高	

備考：4単位修得すること。

3. 専門高度化探究科目 (1) 教科探究科目

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
教科探究 科目	教育における臨床の知	2	1・2	幼・小・中・高	
	教育実践記録と授業分析論	2	1・2	幼・小・中・高	
	社会変動と学力論	2	1・2	幼・小・中・高	
	クロスカリキュラムの学習と評価	2	1・2	幼・小・中・高	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・国語科)	2	1・2	小・中(国)・ 高(国)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・国語科)	2	1・2	小・中(国)・ 高(国)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・社会科)	2	1・2	小・中(社)・ 高(地・公)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・社会科)	2	1・2	小・中(社)・ 高(地・公)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) A	2	1・2	小	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) B	2	1・2	中(数)・高(数)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) A	2	1・2	小	
	授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) B	2	1・2	中(数)・高(数)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) A	2	1・2	小・中(理)・ 高(理)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) B	2	1・2	小・中(理)・ 高(理)	

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
教科探究 科目	授業検証と教科内容開発 (応用・理科) A	2	1・2	小・中(理)・ 高(理)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・理科) B	2	1・2	小・中(理)・ 高(理)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・英語科)	2	1・2	小・中(英)・ 高(英)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・英語科)	2	1・2	小・中(英)・ 高(英)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・技術科)	2	1・2	中(技)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・技術科)	2	1・2	中(技)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科)	2	1・2	小・中(家)・ 高(家)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科)	2	1・2	小・中(家)・ 高(家)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科)	2	1・2	小・中(音)・ 高(音)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科)	2	1・2	小・中(音)・ 高(音)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・美術科)	2	1・2	小・中(美)・ 高(美)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・美術科)	2	1・2	小・中(美)・ 高(美)	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科)	2	1・2	小・中(保体)・ 高(保体)	
	授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科)	2	1・2	小・中(保体)・ 高(保体)	

備考：教科探究プログラムを選択する場合は、教科探究科目の中から8単位以上修得すること。

4. 専門高度化探究科目（2） 特別支援・子ども支援科目

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
特別支援・ 子ども支援 科目	インクルーシブ教育総論	2	1・2	特支（5領域）	
	特別支援教育コーディネーター概論	2	1・2	特支（5領域）	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ（知的障害・自閉症スペクトラム障害等）	2	1・2	特支（5領域）	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ（感覚障害・運動障害・身体疾患系）	2	1・2	特支（5領域）	
	不登校・学校不適応状況と学校教育	2	1・2	特支（5領域）	
	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	2	1・2	特支（5領域）	
	特別支援教育とICT	2	1・2	特支（5領域）	

備考：特別支援・子ども支援プログラムを選択する場合は、特別支援・子ども支援科目の中から8単位以上修得すること。

5. 専門高度化探究科目（3） 学校課題解決マネジメント科目

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
学校課題解 決マネジメ ント科目	地域協働フィールドワーク論	2	1・2	幼・小・中・高	
	リーガルマインドによる学校づくり	2	1・2	幼・小・中・高	
	学校安全と防災教育	2	1・2	幼・小・中・高	
	情報リテラシーとICT	2	1・2	幼・小・中・高	
	グローバル教育課題の探究	2	1・2	幼・小・中・高	
	幼年期の教育と幼保小連携・接続	2	1・2	幼・小	

備考：学校課題解決マネジメントプログラムを選択する場合は、学校課題解決マネジメント科目の中から8単位以上修得すること。

6. 専門高度化深化科目（1）(学校における実習（臨床実践）)

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
学校における実習（臨床実践）	学校課題解決実習	2	1	幼・小・中・高	希望免許種により どちらかを選択
	学校課題解決実習（特別支援）	2	1	特支（5領域）	
	臨床教育開発実習	4	2	幼・小・中・高	希望免許種により どちらかを選択
	臨床教育開発実習（特別支援）	4	2	特支（5領域）	

備考：6単位修得すること。

7. 専門高度化深化科目（2）(実践的指導力融合科目)

区分	授業科目名	単位	対象 年次	専修免許状の 対応	備考
実践的指導力融合科目	実態把握と実践適応論	2	1	幼・小・中・高	
	実践適応と評価・分析論	2	1	幼・小・中・高	
	臨床教育総合演習A	2	2	幼・小・中・高	希望免許種により どちらかを選択
	臨床教育総合演習A（特別支援）	2	2	特支（5領域）	
	臨床教育総合演習B	2	2	幼・小・中・高	希望免許種により どちらかを選択
	臨床教育総合演習B（特別支援）	2	2	特支（5領域）	

備考：8単位修得すること。

令和 7 年度

授 業 計 画

令和7年度 教職大学院 授業計画（前期）

曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	日 程
令和7年 (2025) 4月			1	2	3	4	5	◎春季休業 4月1日（火）～7日（月）
	6	7	8	9	10	11	12	◎学生の定期健康診断（大学院2年次）
	13	14	15	16	17	18	19	4月1日（火）～2日（水）、4日（金）【予定】
	20	21	22	23	24	25	26	◎入学式 4月3日（木）
	27	28	29	30				◎新入生オリエンテーション・ガイダンス 4月7日（月）
								◎前期授業 4月8日（火）～7月31日（木）
5月					1	2	3	7月31日（木）：月曜日授業
	4	5	6	7	8	9	10	◎補講日 7月24日（木）、7月25日（金）、7月30日（水）、 8月4日（月）、8月5日（火）
	11	12	13	14	15	16	17	◎Webによる履修登録期間
	18	19	20	21	22	23	24	4月11日（金）～4月17日（木）
	25	26	27	28	29	30	31	◎新入生健康診断（休講） 4月23日（水）
								◎履修科目取消手続期間（前期・通年科目）
6月	1	2	3	4	5	6	7	4月24日（木）～5月8日（木）
	8	9	10	11	12	13	14	◎研究スタートアップ集会
	15	16	17	18	19	20	21	5月16日（金）3・4時限
	22	23	24	25	26	27	28	◎1年次研究計画表提出期限（1年次）
	29	30						5月30日（金）
7月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	◎前期意見交換会 7月30日（水）午前
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
8月						1	2	◎夏季休業 8月6日（水）～9月30日（火）
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	◎オープンキャンパス 8月6日（水）、7日（木）【予定】
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	◎1年次研究成果中間発表会（1年次） 9月12日（金）
	14	15	16	17	18	19	20	◎2年次研究成果中間発表会（2年次） 9月19日（金）
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					◎Webによる成績開示 9月12日（金）～
授業 日数		15 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)		（ ）は、補講日の日数

注) ○印 7月31日（木）は、月曜日の授業を行う。

令和7年度 教職大学院 授業計画（後期）

曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	日 程
10月				1	2	3	4	◎後期授業 10月1日（水）～12月26日（金） 1月5日（月）～2月5日（木） 1月29日（木）、2月5日（木）：月曜日授業 2月3日（火）：金曜日授業 ◎補講日 1月21日（水）、1月22日（木）、1月27日（火）、 2月6日（金）、2月9日（月） ◎ Web による履修科目追加・取消手続期間（後期科目） 10月3日（金）～10月9日（木） ◎研究ディスカバー集会 10月10日（金）3・4時限 ◎創立記念日（休講） 10月18日（土） ◎大学祭（休講） 10月31日（金）午後【予定】 ◎学校推薦型選抜（休講） 11月28日（金）午後
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
11月							1	◎実践研究論文提出期限（2年次） 1月26日（月） ◎2年次の学修に関わる説明会 1月28日（水）午前 ◎後期意見交換会 1月28日（水）午前 ◎2年次研究成果最終報告会 2月4日（水） ◎学年末休業 2月10日（火）～3月31日（火） ◎1年次研究成果報告会（1年次）3月3日（火） ◎2年次研究計画表提出期限（1年次） 3月6日（金） ◎ Web による成績通知（最終学年） 2月20日（金）～2月24日（火）【予定】 ◎学位記授与式 3月25日（水） ◎ Web による成績開示 3月23日（月）～
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
12月		1	2	3	4	5	6	◎冬季休業 12月27日（土）～1月4日（日） ◎大学入学共通テスト（休講） 1月16日（金）午後 ◎実践研究論文提出期限（2年次） 1月26日（月） ◎2年次の学修に関わる説明会 1月28日（水）午前 ◎後期意見交換会 1月28日（水）午前 ◎2年次研究成果最終報告会 2月4日（水） ◎学年末休業 2月10日（火）～3月31日（火） ◎1年次研究成果報告会（1年次）3月3日（火） ◎2年次研究計画表提出期限（1年次） 3月6日（金） ◎ Web による成績通知（最終学年） 2月20日（金）～2月24日（火）【予定】 ◎学位記授与式 3月25日（水） ◎ Web による成績開示 3月23日（月）～
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
令和8年 (2026) 1月					1	2	3	◎2年次研究成果最終報告会 2月4日（水） ◎学年末休業 2月10日（火）～3月31日（火） ◎1年次研究成果報告会（1年次）3月3日（火） ◎2年次研究計画表提出期限（1年次） 3月6日（金） ◎ Web による成績通知（最終学年） 2月20日（金）～2月24日（火）【予定】 ◎学位記授与式 3月25日（水） ◎ Web による成績開示 3月23日（月）～
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
2月	1	2	3	4	5	6	7	◎1年次研究成果報告会（1年次）3月3日（火） ◎2年次研究計画表提出期限（1年次） 3月6日（金） ◎ Web による成績通知（最終学年） 2月20日（金）～2月24日（火）【予定】 ◎学位記授与式 3月25日（水） ◎ Web による成績開示 3月23日（月）～
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月	1	2	3	4	5	6	7	◎1年次研究成果報告会（1年次）3月3日（火） ◎2年次研究計画表提出期限（1年次） 3月6日（金） ◎ Web による成績通知（最終学年） 2月20日（金）～2月24日（火）【予定】 ◎学位記授与式 3月25日（水） ◎ Web による成績開示 3月23日（月）～
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
授業 日数		15 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)		() は、補講日の日数

注) ○印 1月29日（木）、2月5日（木）は、月曜日の授業を行い、2月3日（火）は金曜日の授業を行う。

令和 7 年度

授業時間割表

○授業内容は次のとおりです。

1 時 限	8 : 50～10 : 20
2 時 限	10 : 30～12 : 00
3 時 限	13 : 00～14 : 30
4 時 限	14 : 40～16 : 10
5 時 限	16 : 20～17 : 50
6 時 限	18 : 00～19 : 30

令和7年度 専門職学位課程（教職）

前期	1 時限	2 時限	3 時限
月曜日		学びの地図と資質・能力 [721教室(7号館2階)] ◎平、金田、齋藤百	安心・安全な学級・学校づくり (基礎) [231教室(2号館3階)] ◎齋藤百、久保、市瀬、高橋亜、 本図、飯村
火曜日	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) B [232教室(2号館3階)] ◎佐藤得、市川、鎌田、田谷、花園	地域協働と学校づくり※ [229教室(2号館2階)] ◎本図、市瀬、小田、 齋藤百、飯村	教師の成長と子どもの発達 [229教室(2号館2階)] ◎田端、越中、小塩、倉戸、飯村
	授業検証と教科内容開発 (基礎・美術科) [美術棟美術教育演習室] ◎村上タ、安彦		
	学校安全と防災教育※ [303(5号館3階)] ◎齋藤百、本図、市瀬、古市 飯村		
水曜日	学校における実習		
木曜日		子どもの生活と行動・実態把握論 ・ 子どもの生活と行動・実態把握論 (特別支援) [229教室(2号館2階)] ◎熊谷、久保	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ (知的障害・自閉症スペクトラム 障害等) [321教室(3号館2階)] ◎熊谷、野崎
金曜日	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉 [301(5号館3階)] ◎久保、三科、松崎、川上	教育における臨床の学の創造 [301(5号館3階)] ◎吉村、金田、深澤	実践的指導力融合科目

注) 太字：共通5領域 教科探究 特別支援・子ども支援 学校課題解決マネジメント ※は一部集中

大学院) 授業時間割表 (前期)

4 時限	5 時限	6 時限	前期
支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ (感覚障害・運動障害・身体疾患系) [301(5号館3階)] ◎永井、松崎、寺本	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) A [223教室(2号館2階)] ◎市川、田谷、鎌田、佐藤得、花園	授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科) [430教室(4号館3階)] ◎原田、日比野、倉戸、小塩、木下和	月曜日
地域協働フィールドワーク論※ [201(6号館2階)] ◎三谷、齊藤千、溝田	授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) A [多目的実験室(理科学学生実験棟2階)] ◎渡辺、内山、中山、福田、西山、 猿渡、笠井		
	インクルーシブ教育総論 [321教室(3号館2階)] ◎永井、松崎、寺本		
授業設計・教科内容構成論 (基礎) [229教室(2号館2階)] ◎吉村、児玉、市川、 木下和、齋藤百	授業検証と教科内容開発 (基礎・国語科) [国語教育演習室(3号館3階)] ◎児玉、中地、佐野、津田	授業検証と教科内容開発 (基礎・技術科) ※ [技術教育実習室1(1号館4階)] ◎板垣、横山	火曜日
	授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) B [多目的実験室(理科学学生実験棟2階)] ◎出口、渡辺、中山、棟方、小林、 高田、菅原	授業検証と教科内容開発 (基礎・社会科) [303(5号館3階)] ◎吉田、西城、田中、堀田、川崎、 石田、山内	
	授業検証と教科内容開発 (基礎・英語科) [508(9号館5階)] ◎和田、竹森、鈴木		
	授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科) [家庭科教育保育実験室 (1号館3階)] ◎香曾我部、亀井、菅原正、西川		
	授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科) [541教室(5号館4階)] ◎黒川、池田、木下英、沼倉、佐藤亮		
学校における実習			水曜日
カリキュラムマネジメントと 教師の役割 [236教室(2号館3階)] ◎吉村、本田、深澤	クロスカリキュラムの学習と評価 [303(5号館3階)] ◎本田、齊藤千、溝田	特別支援教育とICT [301(5号館3階)] ◎寺本、永井、松崎	木曜日
	特別支援教育コーディネーター概論 [201(6号館2階)] ◎菅井、三科、松崎		
実践的指導力融合科目			金曜日

令和7年度 専門職学位課程（教職）

後期	1 時限	2 時限	3 時限
月曜日		授業検証と教科内容開発 (応用・美術科) [美術棟美術教育演習室] ◎平垣内、村上タ	安心・安全な学級・学校づくり (応用) ※ [303(5号館3階)] ◎本図、市瀬、高橋亜、田端、 齋藤百、飯村
		授業検証と教科内容開発 (応用・英語科) [508(9号館5階)] ◎和田、竹森、鈴木	
火曜日	授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) B [232教室(2号館3階)] ◎田谷、市川、鎌田、佐藤得、花園	授業設計・教科内容構成論 (応用) [221教室(2号館2階)] ◎本田、児玉、市川、鈴木、 渡辺、前田正	子どもの生活と行動・実態分析論 ・ 子どもの生活と行動・実態分析論 (特別支援) [229教室(2号館2階)] ◎久保、熊谷
	授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科) [541教室(5号館4階)] ◎黒川、池田、木下英、 沼倉、佐藤亮		
水曜日	学校における実習		
木曜日	リーガルマインドによる学校づくり※ [303(5号館3階)] ◎齋藤百、本図、宮澤、前田、 笹村、飯村	授業検証と教科内容開発 (応用・技術科) ※ [技術教育実習室1(1号館4階)] ◎板垣、横山	特別支援教育と学校・学級経営 ・ 特別支援教育と学校・学級経営 (特別支援) [231教室(2号館3階)] ◎菅井、三科、野崎
金曜日	教育における臨床の知 [303(5号館3階)] ◎吉村、金田、越中、深澤	教育実践記録と授業分析論 [303(5号館3階)] ◎金田、吉村、深澤	実践的指導力融合科目
		不登校・学校不適応状況と学校教育 [301(5号館3階)] ◎久保、樋口	

注) 太字：共通5領域 教科探究 特別支援・子ども支援 学校課題解決マネジメント ※は一部集中

大学院) 授業時間割表 (後期)

4 時限	5 時限	6 時限	後期
情報リテラシーとICT [303(5号館3階)] ◎平、菅原弘、岡本恭介	授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) A [224教室(2号館2階)] ◎鎌田、市川、田谷、佐藤得、花園	授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科) [430教室(4号館3階)] ◎原田、日比野、倉戸、 小塩、木下和	月曜日
	授業検証と教科内容開発 (応用・理科) B [多目的実験室(理科学学生実験棟2階)] ◎出口、渡辺、中山、棟方、小林、 高田、菅原敏 グローバル教育課題の探究 [303(5号館3階)] ◎本図、市瀬、高橋亜、田端、 佐藤哲		
社会変動と学力論 [303(5号館3階)] ◎本田、吉村、宮澤、山田	授業検証と教科内容開発 (応用・国語科) [国語教育演習室(3号館3階)] ◎佐野、津田、児玉、中地	授業検証と教科内容開発 (応用・社会科) [303(5号館3階)] ◎吉田、西城、田中、堀田、川崎、 石田、山内	火曜日
	授業検証と教科内容開発 (応用・理科) A [多目的実験室(理科学学生実験棟2階)] ◎渡辺、内山、中山、福田、西山、 猿渡、笠井 授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科) [家庭科教育保育実験室(1号館3階)] ◎香曾我部、亀井、菅原正、西川		
学校における実習			水曜日
社会に開かれた教育課程と授業開発 [221教室(2号館2階)] ◎本田、金田、深澤	幼年期の教育と幼保小連携・接続 [幼児教育共同研究室(6号館3階)] ◎飯島、香曾我部、越中、齋藤賢		木曜日
実践的指導力融合科目			金曜日

令和 7 年度

講 義 要 目

令和7年度 講義要目

1. 専門高度化基盤科目 (1) (共通5領域科目)

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要		出講予定
教育課程の編成・実施に関する領域	111101	学びの地図と資質・能力	◎平 真木夫 金田 裕子 齋藤 百合	教育課程における評価の健全なPDCAサイクルを確立させるために必要な評価課題の設定について、学習者を実現すべき知識構造や深い学びについておさえつつ、実際にパフォーマンス課題を作成し検証する。		前期月2
	111102	カリキュラムマネジメントと教師の役割	◎吉村 敏之 本田 伊克 深澤 祐司	学習指導におけるPDCAサイクルについて理解し、地域と子どもの教育課題を把握・分析するとともに、その結果に基づいてカリキュラムと授業を計画・実施・検証・改善していくための基礎的な知見を身につける。		前期木4
	111103	社会に開かれた教育課程と授業開発	◎本田 伊克 金田 裕子 深澤 祐司	学校と社会との関係がダイナミックに変化する現代日本の教育において、国民や地域社会が求める要求に応答しながら、学校と社会の協働を軸にした教育課程編成と授業開発を行うための知見を身につける。		後期木4
教科の実践的指導に関する領域	111201	授業設計・教科内容構成論（基礎）	◎吉村 敏之 児玉 忠 市川 啓 木下 和彦 齋藤 百合	教科の授業展開・指導方法に関する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識との関連性に基づきながら、授業を組織する原理と方法について理論的に考察する力を身につける。		前期火4
	111202	授業設計・教科内容構成論（応用）	◎本田 伊克 児玉 忠 市川 啓 鈴木 渉 渡辺 尚 前田 正	教科の授業展開・指導方法に関する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識との関連性について、具体的な授業実践を把握する活動を通して考察する。考察を通して、教材研究の進め方、授業展開、授業分析の方法等の教科指導力に関する専門性の向上を図る。		後期火2
	111203	教育における臨床の学の創造	◎吉村 敏之 金田 裕子 深澤 祐司	授業における学習の事実への臨床的研究により、児童・生徒の内面世界の理解を深め、教材の魅力を発見し、「深い学び」の実現にむけた指導のあり方を探る。実際の授業の事例を検討しながら、子どもの学習の質、教師の指導のあり方を省察し、改善する臨床の知を求める。		前期金2
生徒指導・教育相談に関する領域	111301	子どもの生活と行動・実態把握論	◎熊谷 亮 久保 順也	教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握するために、カウンセリングや発達、特別支援教育に関する諸理論に照らしつつ、その実態や意味について理解を深めるとともに、演習を通して教育相談活動の中での実際的な活用方法を学ぶ。	希望免許種により、どちらかを選択	前期木2
	111302	子どもの生活と行動・実態把握論（特別支援）	◎熊谷 亮 久保 順也			

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要		出講予定
生徒指導・教育相談に関する領域	111303	子どもの生活と行動・実態分析論	◎久保 順也 熊谷 亮	「子どもの生活と行動・実態把握論」で学修した資料や知識等を土台としてつ、教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について分析や評価、検討の方法論について理論的に学ぶとともに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・指導方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。	希 望 免 許 種により、 どちらか を選択	後期火 3
	111304	子どもの生活と行動・実態分析論 (特別支援)	◎久保 順也 熊谷 亮			
	111305	特別支援教育と学校・学級経営	◎菅井 裕行 三科 聡子 野崎 義和	配慮を必要とする児童生徒を含めた学級経営や学校運営の状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業展開や生徒指導等についてケーススタディを行う。	希 望 免 許 種により、 どちらか を選択	後期木 3
	111306	特別支援教育と学校・学級経営（特別支援）	◎菅井 裕行 三科 聡子 野崎 義和			
学級経営・学校経営に関する領域	111401	安 心 ・ 安 全 な 学 級 ・ 学 校 づ く り (基礎)	◎齋藤 百合 市瀬 智紀 久保 順也 高橋亜紀子 本図 愛実 飯村 寧史	学級・学年・学校経営の基礎的事項及び技術について事例とともに学ぶ。望ましい集団づくり、いじめ未然防止と対応、外国籍の児童生徒を含む、インクルーシブな学級づくり、不登校への対応、安全の確保、危機管理について考察する。		前期月 3
	111402	安 心 ・ 安 全 な 学 級 ・ 学 校 づ く り (応用)	◎本図 愛実 市瀬 智紀 高橋亜紀子 田端 健人 齋藤 百合 飯村 寧史	学力と評価に関わる歴史や政策ならびに国際的な教育課題解決に関わる動向を基に、学校マネジメントの現状と課題を踏まえ、全ての子どもが学ぶ意欲を高め、学力向上を導く学校ブランドデザイン／学力の育成方法の実現について検討する。		後期月 3 一部集中
学校教育と教員のあり方に関する領域	111501	地域協働と学校づくり	◎本図 愛実 齋藤 百合 市瀬 智紀 小田 隆史 飯村 寧史	組織マネジメントとカリキュラム・マネジメントを土台とし、地域教育資源の活用について、その多元性、多様性を事例とともに考察し、地域協働による学校づくりの在り方について検討する。防災、歴史、地理、国際関係などを取り上げる。これらを基に、見直しの視点を明確にする。		前期火 2 ＋一部集中（土曜日 1 回）
	111502	教師の成長と子どもの発達	◎田端 健人 小塩さとみ 倉戸 テル 越中 康治 飯村 寧史	教師の成長との関連で子どもの発達について学ぶとともに、子どもの認知・非認知スキルを育成する主体的・対話的な学びのあり方を、演習・事例検討を通して発達段階ごとに考える。		前期火 3

2. 専門高度化基盤科目（2）(学校における実習（基礎実践）)

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
学校における実習 (基礎実践)	111601	学校課題探究実習Ⅰ	全教員	院生が、各自、自分のテーマに関わる教科単位についての教材、指導、子どもの実態について把握し、自らの学習指導計画を立てる基礎をつくる。附属学校園や実習拠点校を活用し、授業参観等により、院生各自の研究テーマに即して、各校種・教科・領域および単位における学習指導の課題と子どもの実態を把握する。	前期水
	111602	学校課題探究実習Ⅱ	全教員	自らの授業実践の結果を省察し、授業、学級経営、子ども支援をどのように立案・実施すべきか、自己の教育課題を見出す。学校課題実践研究Ⅰでの学修成果をもとに、各院生の研究テーマに関わる教科・領域等について一つの単位全体・各時の学習指導計画を立て、授業実践を行う。	前期水

3. 専門高度化探究科目（1） 教科探究科目

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
教科探究科目	112101	教育における臨床の知	◎吉村 敏之 金田 裕子 越中 康治 深澤 祐司	本学で40年以上にわたって脈々と蓄積されてきた「教育における臨床の学」の財産をいかし、子どもの学習の道筋に即して学問・芸術の魅力を味わわせる教科指導のあり方をさぐる。	後期金1
	112102	教育実践記録と授業分析論	◎金田 裕子 吉村 敏之 深澤 祐司	本学に蓄積されている教育実践アーカイブを活用し、授業の文書記録と映像記録をもとに、記録に現れた授業に関する典型的な課題を見出す。自身の授業実践の経験を省察する方法論、自身の授業実践の事実と事実から得た知見をエピソード記述として描く方法論を身につける。	後期金2
	112103	社会変動と学力論	◎本田 伊克 吉村 敏之 宮澤 孝子 山田美都雄	変動の激しい現代日本の社会において、学校教育に求められる課題の変遷と現状について把握するとともに、こうした学校に要請される社会的課題が、学校で育てるべき「学力」の特徴と方向性等について持っている意味について、教育学的に構想するために必要な知見を学ぶ。	後期火4
	112104	クロスカリキュラムの学習と評価	◎本田 伊克 齊藤千映美 溝田 浩二	クロスカリキュラム（教科横断）型学習は、教科学習をこれからの時代に求められる資質・能力の育成に結びつけるための、鍵となる重要な手法である。この授業では、教科横断型学習の意義、課題設定・教材開発・授業づくりという一連の流れを、地域の自然環境と循環共生社会に関わる題材を取り上げて学ぶ。	前期木5
	112105	授業検証と教科内容開発（基礎・国語科）	◎児玉 忠文 中地 幹 佐野 智史 津田	国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、国語科の教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識とを、教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。	前期火5
	112106	授業検証と教科内容開発（応用・国語科）	◎佐野 幹 津田 智史 児玉 忠文 中地	国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、国語科の教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識とをふまえ、教材として実際のかつ具体的に構成していくことを通して、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	後期火5
	112107	授業検証と教科内容開発（基礎・社会科）	◎吉田 剛 西城 潔 田中 良英 堀田 幸義 川崎 惣一 石田 雅樹 山内 明美	社会科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科に関わる学術的な知見を用いて実際のかつ具体的に授業構成していく力を身につける。	前期火6
	112108	授業検証と教科内容開発（応用・社会科）	◎吉田 剛 西城 潔 田中 良英 堀田 幸義 川崎 惣一 石田 雅樹 山内 明美	社会科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科に関わる学術的な知見を用いて具体的に授業を実践できる力を身につける。	後期火6

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
教科探究科目	112109	授業検証と教科内容開発（基礎・算数、数学科）A	◎市川 啓 田谷 久雄 鎌田 博行 佐藤 得志 花園 隼人	算数・数学科に関する教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につけ、学校現場において算数・数学の授業改善をするための基礎的な資質・能力を育成する。	前期月5
	112110	授業検証と教科内容開発（基礎・算数、数学科）B	◎佐藤 得志 市川 啓 鎌田 博行 田谷 久雄 花園 隼人	数学科に関する学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を、教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について考察する力を身につけ、学校現場において数学の授業改善をするための基礎的な資質・能力を育成する。	前期火1
	112111	授業検証と教科内容開発（応用・算数、数学科）A	◎鎌田 博行 市川 啓 田谷 久雄 佐藤 得志 花園 隼人	算数科・数学科に関する学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を、教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について考察する力を身につけ、学校現場において数学の授業改善をするための基礎的な資質・能力を育成する。	後期月5
	112112	授業検証と教科内容開発（応用・算数、数学科）B	◎田谷 久雄 市川 啓 鎌田 博行 佐藤 得志 花園 隼人	数学科に関する学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を、教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について考察する力を身につけ、学校現場において数学の授業改善をするための基礎的な資質・能力を育成する。	後期火1
	112113	授業検証と教科内容開発（基礎・理科）A	◎渡辺 尚 内山 哲治 中山 慎也 福田 善之 西山 正吾 猿渡 英之 笠井香代子	理科の基本的な概念のうち「エネルギー」と「粒子」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、学界における新しい考え方などについて議論する。また、授業の設計・検証を行う力を身につける。	前期月5
	112114	授業検証と教科内容開発（基礎・理科）B	◎出口 竜作 渡辺 尚 中山 慎也 棟方 有宗 小林 恭士 高田 淑子 菅原 敏	理科の基本的な概念のうち「生命」と「地球」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、学界における新しい考え方などについて議論する。また、授業の設計・検証を行う力を身につける。	前期火5
	112115	授業検証と教科内容開発（応用・理科）A	◎渡辺 尚 内山 哲治 中山 慎也 福田 善之 西山 正吾 猿渡 英之 笠井香代子	理科の基本的な概念のうち「エネルギー」と「粒子」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている観察や実験を円滑に実施するための技能、ならびに結果を分析・解釈する力を身につける。また、探究的な学びにつながる新しい教材・教具の開発や改良に取り組む。	後期火5

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
教科探究科目	112116	授業検証と教科内容開発（応用・理科）B	◎出口 竜作 渡辺 尚 中山 慎也 棟方 有宗 小林 恭士 高田 淑子 菅原 敏	理科の基本的な概念のうち「生命」と「地球」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている観察や実験を円滑に実施するための技能、ならびに結果を分析・解釈する力を身につける。また、探究的な学びにつながる新しい教材・教具の開発や改良に取り組む。	後期月5
	112117	授業検証と教科内容開発（基礎・英語科）	◎和田あずさ 鈴木 渉 竹森 徹士	英語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。	前期火5
	112118	授業検証と教科内容開発（応用・英語科）	◎和田あずさ 鈴木 渉 竹森 徹士	小・中・高等学校外国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	後期月2
	112119	授業検証と教科内容開発（基礎・技術科）	◎板垣 翔大 横山 秀敏	技術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。	前期火6 一部集中
	112120	授業検証と教科内容開発（応用・技術科）	◎板垣 翔大 横山 秀敏	技術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	後期木2 一部集中
	112121	授業検証と教科内容開発（基礎・家庭科）	◎香曾我部琢 亀井 文 菅原 正則 西川 重和	本科目では、小・中・高等学校の家庭科学習指導要領において示されている各内容・科目における教科内容の現状と課題に関する知識を習得した上で、これから求められる教材を構成する力と自らの授業実践を理論的に考察する力を育成することを目的とする。具体的には、各領域の専門知識を基にした教材開発を行い、模擬的な授業を通じてその実際の指導も含めて検証を行うことで、理論的な考察力の向上を目指す。	前期火5
	112122	授業検証と教科内容開発（応用・家庭科）	◎香曾我部琢 亀井 文 菅原 正則 西川 重和	本科目では、学習指導要領に示された生活産業の各領域において、国際的な動向や他教科、地域資源を活用した教材の開発とその検証を行う過程で、その開発した教材に関する教科指導力の育成と、他教科・他科目との領域融合や地域教育資源活用などの横断的な学習活動を構成する力の育成を目的とする。具体的には、各科目の専門知識を基にした教材開発を行い、実際の授業とその分析を行うことで教科指導力の向上を目指す。	後期火5

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
教科探究科目	112123	授業検証と教科内容開発（基礎・音楽科）	◎原田 博之 日比野裕幸 小塩さとみ 倉戸 テル 木下 和彦	音楽科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として、実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	前期月6
	112124	授業検証と教科内容開発（応用・音楽科）	◎原田 博之 日比野裕幸 小塩さとみ 倉戸 テル 木下 和彦	音楽科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。	後期月6
	112125	授業検証と教科内容開発（基礎・美術科）	◎村上タカシ 安彦 文平	美術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。	前期火1
	112126	授業検証と教科内容開発（応用・美術科）	◎平垣内 清 村上タカシ	美術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	後期月2
	112127	授業検証と教科内容開発（基礎・保健体育科）	◎黒川 修行 池田 晃一 木下 英俊 沼倉 学 佐藤 亮平	体育科・保健体育科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について、理論的に考察する力を身につける。	前期火5
	112128	授業検証と教科内容開発（応用・保健体育科）	◎黒川 修行 池田 晃一 木下 英俊 沼倉 学 佐藤 亮平	体育科・保健体育科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。	後期火1

4. 専門高度化探究科目（2） 特別支援・子ども支援科目

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
特別支援・子ども支援科目	112201	インクルーシブ教育総論	◎永井 伸幸 松崎 丈 寺本 淳志	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進という、現在の日本における教育とめざすべき社会の実現のための、教育現場の具体的な取り組みについての理解と実践力を身につける。	前期月 5
	112202	特別支援教育コーディネーター概論	◎菅井 裕行 三科 聡子 松崎 丈	小学校や中学校、高等学校ならびに特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割、その活動に必要とされる資質・能力の基礎を身につけるための研修、実践のあり方についての理解を促す。受講者の現任校等の実際の事例を検討するとともに、各種資料も含めたさまざまなケースを取り上げ、コーディネーター業務に直結する具体的・実内容的理解を深める。	前期木 5
	112203	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ（知的障害・自閉症スペクトラム障害等）	◎熊谷 亮 野崎 義和	小学校や中学校、高等学校ならびに特別支援学校における知的障害・自閉症スペクトラム障害等の発達障害のある児童生徒を指導・支援するための基盤となる資質・能力を高める。受講者の現任校や実習等の事例を基に検討するとともに、実態把握から具体的な指導・支援へとつなげる実践力を身につける。	前期木 3
	112204	支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ（感覚障害・運動障害・身体疾患系）	◎永井 伸幸 松崎 丈 寺本 淳志	小学校・中学校・高等学校等の通常学級・特別支援学級・通級指導教室、特別支援学校における視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由・病弱等のある児童生徒への教育的支援と、各学校等における取り組みの在り方について、具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、教材作成・教材活用についてのケーススタディを行う。	前期月 4
	112205	不登校・学校不適応状況と学校教育	◎久保 順也 樋口 広思	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における不登校・学校不適応状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、各種専門機関との連携・協働等についてのケーススタディを行う。	後期金 2
	112206	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	◎久保 順也 三科 聡子 松崎 丈 川上 芳夫	学校内に限定することなく、家庭や地域さらには広く社会において子どもたちが直面している社会的諸問題の実態を分析するとともに、各種専門機関の役割と福祉的施策を含めた対応等についてのケーススタディを行う。	前期金 1
	112207	特別支援教育と ICT	◎寺本 淳志 永井 伸幸 松崎 丈	配慮を必要とする児童生徒に対する指導・支援における各種 ICT の活用状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、ICT 機器の実践的活用、アプリケーション等の教材作成と、それを用いた教材活用法についてのケーススタディを行う。	前期木 6

5. 専門高度化探究科目（3） 学校課題解決マネジメント科目

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要	出講予定
学校課題解決マネジメント科目	112301	地域協働フィールドワーク論	◎三谷 高史 齊藤千映美 溝田 浩二	社会教育活動・自然体験活動・地域活動など、多様な活動の観察や専門機関・関係者の聞き取り調査を含めたフィールドワークを核に授業を展開する。地域と学校のネットワークを通しての人間形成を担い、教師として「社会に開かれた教育課程」を実現できる力の育成をめざす。	前期月4 一部集中 (予定変更の場合は新年度に通知)
	112302	リーガルマインドによる学校づくり	◎齋藤 百合 本図 愛実 宮澤 孝子 前田 正 笹村 恵司 飯村 寧史	教育法の体系の下に学校教育活動がどのように展開されるべきか、教員の職務や服務、学校事故等への対応、コンプライアンス等のテーマについて判例となった事例の分析も交え、具体的な事例を用いながら検討する。いじめ防止対策推進法についても取り上げる。リーガルマインドに基づく学校づくりを各学校においてどのように実現していくか課題の克服について討議する。	後期木1 一部集中
	112303	学校安全と防災教育	◎齋藤 百合 本図 愛実 市瀬 智紀 古市 剛久 飯村 寧史	地域の災害履歴の調査等を通じて、学校と地域の防災のあり方について省察する。地域防災や安全管理の先進事例や専門機関の取り組みを、学校安全マニュアル等を見直しに活かす。PDCAに基づく学校と地域が協働する学校防災について考察する。	前期火1 一部集中
	112304	情報リテラシーとICT	◎平 真木夫 菅原 弘一 岡本 恭介	情報化が進展している今日的な社会状況の中で、自らの目的にふさわしい情報を適切に選択し、発信できる力を子どもに育成するとともに、ICTを効果的に活用してカリキュラム、授業実践、学校運営等を効率的に行っていくことのできる知見と方法を学ぶ。	後期月4
	112305	グローカル教育課題の探究	◎本図 愛実 市瀬 智紀 高橋亜紀子 田端 健人 佐藤 哲也	SDGsなど国際社会全体の持続可能な到達目標を見据え、日本の学校教育を検討する。公正の普遍的価値を理解し、インクルーシブ教育、グローバルシチズンシップ、外国籍の児童生徒を含む指導、資質能力の理解、オルタナティブ教育、社会的経済的階層、幼年期の教育方法の多様性と可能性といった視点などを踏まえ、フィールドワークを行い、批判的検討を加え、課題解決の方策を検討する。	後期月5
	112306	幼年期の教育と幼保小連携・接続	◎飯島 典子 香曾我部琢 越中 康治 齋藤 賢一	就学前教育・保育（保育所、幼稚園、認定こども園）と小学校教育との連携と接続に関して理論と実践の双方から検討する。歴史的・社会的背景、国や都道府県・市町村の取り組み、学校園におけるアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの策定、実践展開と評価、今後の課題について多角的に考察を進めていく。	後期木5

6. 専門高度化深化科目（1）(学校における実習（臨床実践）)

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要		出講予定
学校における実習（臨床実践）	113101	学校課題解決実習	全教員	自ら立案・実施した学習指導等の成果を分析し、各自の取り組む課題を明確にする。学校教育創造・研修校において優れた授業実践に学び、学校・地域の課題も視野に入れつつ、自らの実践の課題について省察する。	希望免許種により、どちらかを選択	後期水
	113102	学校課題解決実習（特別支援）	全教員	自ら立案・実施した教育実践の成果を分析し、各自の取り組む課題を明確にする。学校教育創造・研修校において優れた授業実践に学び、学校・地域の課題も視野に入れつつ、自らの実践の課題について省察する。		
	113103	臨床教育開発実習	全教員	自ら立案・実施した教育実践の分析を通して得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導力を深化させる。臨床教育総合演習A・Bと連動しながら、大学と学校教育創造・研修校及び勤務校を往還することで、教科専門、教科教育専門、教職専門、実務家教員のチーム・ティーチングを通した学修により、学校・地域の「臨床」に即した実践と研究を進める。	希望免許種により、どちらかを選択	通年
	113104	臨床教育開発実習（特別支援）	全教員	自ら立案・実施した教育実践の分析を通して得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導・支援力を深化させる。臨床教育総合演習A・Bと連動しながら、大学と学校教育創造・研修校及び勤務校を往還し、各領域の特別支援領域教員のチーム・ティーチングを通した学修により、学校・地域の「臨床」に即した実践と研究を進める。		

7. 専門高度化深化科目（2）(実践的指導力融合科目)

区分	授業コード	授業科目名	担当教員	授業概要		出講予定
実践的指導力融合科目	113201	実態把握と実践適応論	全教員	各種の学校課題の解決との関連に配慮しつつ、必要な理論的知見を獲得しながら、自己の研究テーマに即した課題について「把握」を行う。そして、課題の把握を通じて得た知見・方法の実践への「適応」を行うための準備を行う。教育科学専門領域、教科教育専門領域、教科専門領域、特別支援教育専門領域および実務家教員の指導のもとに以上の過程について総合的に考察を行い、「実践適応と評価・分析論」での学修に結びつけていく。		前期金 3～5
	113202	実践適応と評価・分析論	全教員	自己の研究テーマに即した把握および適用（実践）の一連のプロセスを発展させ、中間的な成果と課題について、教育科学専門領域、教科教育領域、教科専門領域、特別支援教育専門領域および実務家教員の知見を踏まえて評価、分析し、その成果を1年次最終報告としての実践研究論文にまとめる。		後期金 3～5
	113203	臨床教育総合演習A	全教員	自己の研究テーマに関する教育課題の把握および適応（実践）、評価および分析をより深め、明らかになった成果と課題について、教育科学専門領域、教科教育領域、教科専門領域、特別支援教育専門領域および実務家教員の知見を踏まえて総合的に考察を行い、取り組みの改善に向けた見通しをもち、その成果を2年次中間報告としての実践研究論文にまとめる。	希望免許種により、どちらかを選択	前期金 3～5
	113204	臨床教育総合演習A（特別支援）	全教員			
	113205	臨床教育総合演習B	全教員	把握・適応（実践）- 評価・分析の一連のプロセスを総括し、その延長線上に、各種の学校課題の解決に向けた新たな試みとして教育課程・指導支援計画等の「開発」の活動を行い、その成果を最終的な実践研究論文としてまとめる。	希望免許種により、どちらかを選択	後期金 3～5
	113206	臨床教育総合演習B（特別支援）	全教員			

教 員 一 覽

教員一覧

研究科長 佐 藤 哲 也

専攻長 本 田 伊 克

教育担当教員（専任教員）

	氏 名	主に担当するプログラム	内線番号
教 授	市 川 啓	教科探究	3403
教 授	内 山 哲 治	教科探究	3410
教 授	金 田 裕 子	教科探究	3215
教 授	黒 川 修 行	教科探究	3459
教 授	香曾我部 琢	教科探究	3484
教 授	齊 藤 千映美	教科探究	3534
教 授	鈴 木 渉	教科探究	3490
教 授	平 真木夫	教科探究	3523
教 授	出 口 竜 作	教科探究	3413
教 授	堀 田 幸 義	教科探究	3396
教 授	本 田 伊 克	教科探究	3520
教 授	吉 田 剛	教科探究	3395
教 授	吉 村 敏 之	教科探究	3216
教 授	渡 辺 尚	教科探究	3423
准 教 授	越 中 康 治	教科探究	3519
准 教 授	木 下 和 彦	教科探究	3530
准 教 授	戸 塚 将	教科探究	3494
准 教 授	深 澤 祐 司	教科探究	3603
特任教授	前 田 正	教科探究	3217

教 授	久 保 順 也	特別支援・子ども支援	3525
教 授	菅 井 裕 行	特別支援・子ども支援	3503
教 授	永 井 伸 幸	特別支援・子ども支援	3505
准 教 授	熊 谷 亮	特別支援・子ども支援	3524
教 授	田 端 健 人	学校課題解決マネジメント	3522
教 授	本 図 愛 実	学校課題解決マネジメント	3822
准 教 授	齋 藤 百 合	学校課題解決マネジメント	3518
准 教 授	三 谷 高 史	学校課題解決マネジメント	3435
准 教 授	宮 澤 孝 子	学校課題解決マネジメント	3531
特任教授	岩 田 光 世	学校課題解決マネジメント	3532
特任教授	菅 原 弘 一	学校課題解決マネジメント	3645
特任教授	成 瀬 啓	学校課題解決マネジメント	3715
准 教 授	飯 村 寧 史	学校課題解決マネジメント	3606

授業担当兼担教員

	氏 名	専門分野	内線番号
教 授	安 彦 文 平	絵画	3450
教 授	飯 島 典 子	保育内容学	3511
教 授	池 田 晃 一	スポーツバイオメカニクス サッカーコーチング論	3457
教 授	石 田 雅 樹	政治学	3656
教 授	市 瀬 智 紀	国際教育	3381
教 授	小 塩 さとみ	音楽学	3441
教 授	笠 井 香代子	化学	3429
教 授	鎌 田 博 行	幾何学	3491
教 授	亀 井 文	食物学	3485
教 授	川 崎 惣 一	哲学	3392

教 授	木 下 英 俊	スポーツ運動学 器械運動方法論	3464
教 授	倉 戸 テ ル	器楽（ピアノ）	3513
教 授	児 玉 忠	国語科教育学	3376
教 授	西 城 潔	地理学	3385
教 授	佐 藤 哲 也	幼児教育学	3512
教 授	猿 渡 英 之	化学	3470
教 授	菅 原 敏	地学	3466
教 授	菅 原 正 則	住居学	3483
教 授	高 田 淑 子	地学	3415
教 授	高 橋 亜紀子	国際教育	3371
教 授	竹 森 徹 士	英文学	3496
教 授	田 中 良 英	歴史学（西洋史）	3384
教 授	田 谷 久 雄	代数学	3398
教 授	中 地 文	国文学（児童文学）	3379
教 授	西 川 重 和	被服学	3481
教 授	西 山 正 吾	物理学	3422
教 授	原 田 博 之	声楽・音楽科教育学	3436
教 授	日比野 裕 幸	合奏・アンサンブルを中心とした 研究、演奏	3439
教 授	平垣内 清	絵画	3448
教 授	福 田 善 之	物理学	3411
教 授	松 崎 丈	聴覚障害学	214-3501（FAX）
教 授	溝 田 浩 二	環境教育	3515
教 授	棟 方 有 宗	生物学	3414
教 授	村 上 タカシ	美術科教育学	3437
准 教 授	板 垣 翔 大	技術科教育	3479

准教授	岡本恭介	情報科教育学・教育工学	3536
准教授	小林恭士	生物学	3425
准教授	佐藤得志	解析学	3406
准教授	佐藤亮平	体育科教育学・体育方法	3460
准教授	佐野 幹	教育学（国語教育）	3648
准教授	寺本淳志	病弱運動障害学	3506
准教授	津田智史	日本語学	3375
准教授	中山慎也	理科教育学	3420
准教授	沼倉 学	体育科教育学	3462
准教授	野崎義和	発達障害学	3500
准教授	花園隼人	数学科教育学	3405
准教授	三科聡子	視覚障害学	3502
准教授	山内明美	社会学	3390
准教授	山田美都雄	高等教育学、教育社会学	3537
准教授	和田あずさ	英語科教育学	3488

